

都城志布志間高規格道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 山ノ田遺跡発掘調査報告書

2005年 12月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

## 序 文

都城志布志間高規格道路を整備するにあたり、平成9年度に行った分布調査の結果、この地域は埋蔵文化財の包蔵地にあたるとうかったので、山ノ田遺跡を平成13年8月15日から平成14年3月15日までの間発掘調査をしました。調査面積は3,000㎡になりました。

山ノ田遺跡はすでに昭和63年度に県教育委員会が主体となって発掘調査を行っています。その時は弥生時代の住居跡が発見されています。今回の発掘調査区域はその地点から約400mくらいしか離れていないため、貴重な資料が発見されるかと期待していました。遺物が出土し遺跡の範囲も把握され、集石という調理をした跡が発見されました。しかし、今回調査した場所は遺跡の端であったためでしょうか、住居跡は発見されませんでした。必ず近くにあるのではないかと思います。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化財課、埋蔵文化財センターの先生方に厚く御礼申し上げます。

平成17年12月

松山町教育委員会

教育長 金子末房

## 例 言

1. 本報告書は、平成13年度に実施した都城志布志間高規格道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県の受託事業として松山町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査の実施及び実測は上田義明が行った。
4. 発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5. 本書に用いたレベル数値はすべて海拔絶対高である。
6. 本報告書の執筆・編集は上田義明が行った。
7. 発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。
8. 出土遺物は、報告書作成終了後、松山町歴史民俗資料館で保管し、展示・活用する計画である。

# 報告書抄録

ふりがな	やま の だ い せき				
書名	山ノ田 遺 跡				
副書名	都城志布志間高規格道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書				
巻次					
シリーズ名	松山町埋蔵文化財発掘調査報告書(14)				
シリーズ番号					
編著者名	上 田 義 明				
編集機関	松山町教育委員会				
所在地	〒899-7602 鹿児島県曾於郡松山町泰野3410番地				
発行年月日	2005年12月 1日				
ふりがな	やま の だ い せき				
所収遺跡名	山ノ田 遺 跡				
所在地	鹿児島県曾於郡松山町新橋山ノ田				
調査期間	2001. 8. 15~2002. 3. 15				
調査面積	3000m <sup>2</sup>				
調査原因	都城志布志間高規格道路建設				
出土遺物・遺構等	主な時代	主な遺構	主な遺物	出土量	特記事項
	縄文時代	集石 2	縄文時代 早期	パンケース 10箱	

## 本文目次

序文

例言

報告書抄録

第1章	調査の経過	1
第1節	調査に至るまでの経過	1
第2節	調査の組織	1
第3節	調査の経過	2
第2章	遺跡の位置及び環境	3
第3章	遺跡の層位	8
第4章	山ノ田遺跡の調査	9
第1節	調査の方法	9
第2節	遺構	10
第4節	出土遺物	15
第3章	まとめ	21

## 挿図目次

第1図	山ノ田遺跡位置図①	3
第2図	山ノ田遺跡位置図②	4
第3図	1号集石実測図①	9
第4図	1号集石実測図②	10
第5図	1号集石実測図③	10
第6図	2号集石実測図	11
第7図	3号集石実測図①	12
第8図	3号集積実測図②	13
第9図	4号集積実測図	14
第10図	5号集積実測図	14
第11図	出土土器実測図①	15
第12図	出土土器実測図②	16
第13図	出土石器実測図①	18
第14図	出土石器実測図②	19
第15図	出土石器実測図③	20

## 表目次

第1表	松山町遺跡一覧表	5
第2表	土器観察表	17
第3表	石器観察表	20

## 図版目次

図版1	遺物出土状況	22
図版2	3号集石検出状況	22
図版3	出土土器①	23
図版4	出土土器②	23
図版5	出土石器①	24
図版6	出土石器②	24

# 第1章 調査の経過

## 1) 調査に至るまでの経過

鹿児島県土木部（大隅土木事務所）は、曾於郡松山町新橋山ノ田工区において都城志布志間高規格道路建設を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化財課に照会した。

これをうけて、平成9年4月、県文化財課で当該地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に山ノ田遺跡の存在していることが確認された。この結果に基づき、県教育委員会が調査主体となって、遺跡の範囲・性格等を把握するための確認調査を実施することとなった。

確認調査の結果、遺跡の範囲等の詳細が判明し、再度県土木部（大隅土木事務所）と県教育委員会、町教育委員会と協議を行ったところ、現状のまま遺跡を保存することは施工上支障が生じるため、遺跡の工事予定区内の全面発掘調査を実施し記録保存を図ることになった。

発掘確認調査は、鹿児島県土木部（大隅土木事務所）からの受託事業として、松山町教育委員会が調査主体となり、県文化財課の協力を得て、平成13年8月15日から平成14年3月15日まで実施した。調査面積は計3000㎡である。なお、整理作業は平成17年度に行った。

## 2) 調査の組織

調査主体者	松山町教育委員会	
調査責任者	松山町教育委員会	教 育 長 金子 末房
調査事務担当者	〃	教 育 課 長 溝口 敏久
	〃	参事兼指導主事 田中 幸太郎
	〃	課 長 補 佐 福留 栄行
	〃	主 幹 後藤 由紀子
	〃	派遣社会教育主事 河原橋 憲章
	〃	主 事 吉元 裕二
	〃	主 事 上田 義明
	〃	主 事 佐々木 剛
	〃	社会教育指導員 新村 辰郎
	〃	庶 務 係 早崎 ゆう子
調査担当者	松山町教育委員会	主 事 上田 義明

### 3) 調査の経過

月	内 容
8月	15日、プレハブ、トイレ設置用農地整備開始。調査予定区内の半分を表土重機により掘下げ。プレハブ、トイレ設置終了。16日調査機材搬入。グリッド杭設置。午後より調査開始。3層面掘り下げ開始。土器片、石鏃等出土。
9月	調査継続。3層面掘り下げ終了。4 a層面掘り下げ作業継続。調査区内の東側に集石（1号集石）と規則的に配列する丸い土壙5基と方形の土壙1基。3層、4 a層遺物出土状況実測。写真撮影。遺物取り上げ。1号集石出土状況実測。写真撮影。遺物取り上げ。方形の土壙実測。検出状況写真撮影。
10月	調査継続。調査区内の西側5層掘り下げ。東側集石検出。（2号集石）4層及び5層から土器片、石器出土。土層の横転現象を確認。2号集石検出状況実測。写真撮影。
11月	調査継続。調査区内の西側6層掘り下げ。東側5層掘り下げ。調査区内の北側の表土を重機により掘り下げ。5層、6層遺物出土状況実測。写真撮影。遺物取り上げ。
12月	調査継続。調査区内の西側7層掘り下げ。東側5層掘り下げ。北側3層掘り下げ。土器片、石器等出土。6層、5層遺物出土状況実測。写真撮影。遺物取り上げ。調査区内の北側の確認調査のトレンチ跡の9層面より集石検出。（3号集石）
1月	調査継続。調査区内の北側4 a層、5層掘り下げ。東側、西側8層、9層掘り下げ。土器片、石器等出土。4層、5層遺物出土状況実測。写真撮影。3号集石検出状況実測。写真撮影。
2月	調査継続。調査区内の北側6層、7層掘り下げ。土器片、石器等出土。東側調査終了。調査区内の中央部のトレンチ跡より縄文時代早期の集石検出。（4号集石）3北側6層遺物出土状況実測。写真撮影。
3月	調査継続。調査区内の6層、7層、8層、9層掘り下げ。土器片、石器等出土。6層遺物出土状況実測。写真撮影。4号集石検出状況実測。写真撮影。全調査終了。15日、調査機材の搬出。仮設プレハブ、トイレ撤収。18日、仮設プレハブ、トイレ用借用農地整備終了。

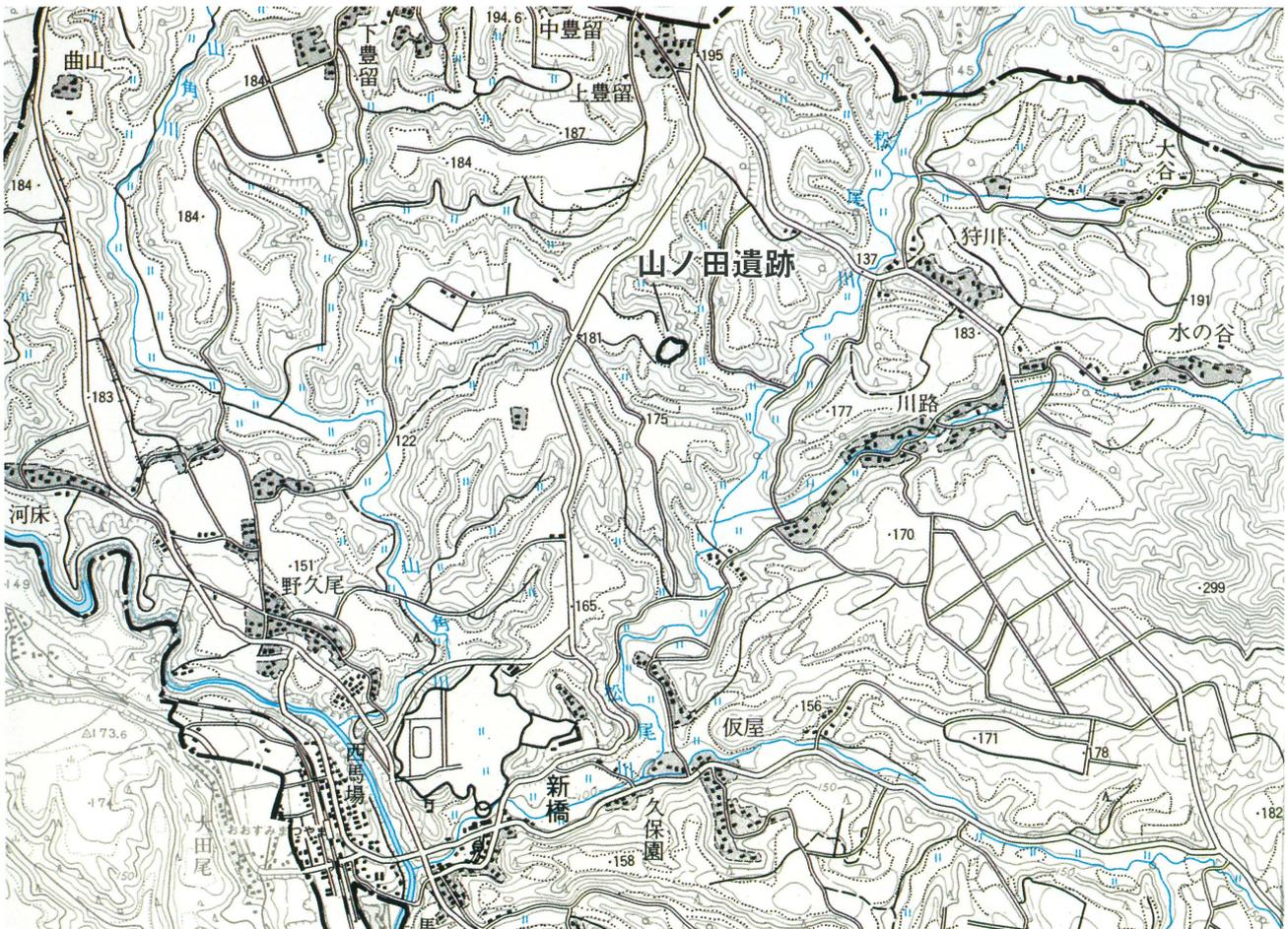
## 第2章 遺跡の位置及び環境

山ノ田遺跡のある松山町は、大隈半島曾於郡のほぼ中央部に位置し、東西に細長く東西12km、南北4kmである。東は志布志町、西は末吉町、南は有明町・志布志町、北は末吉町に境している。

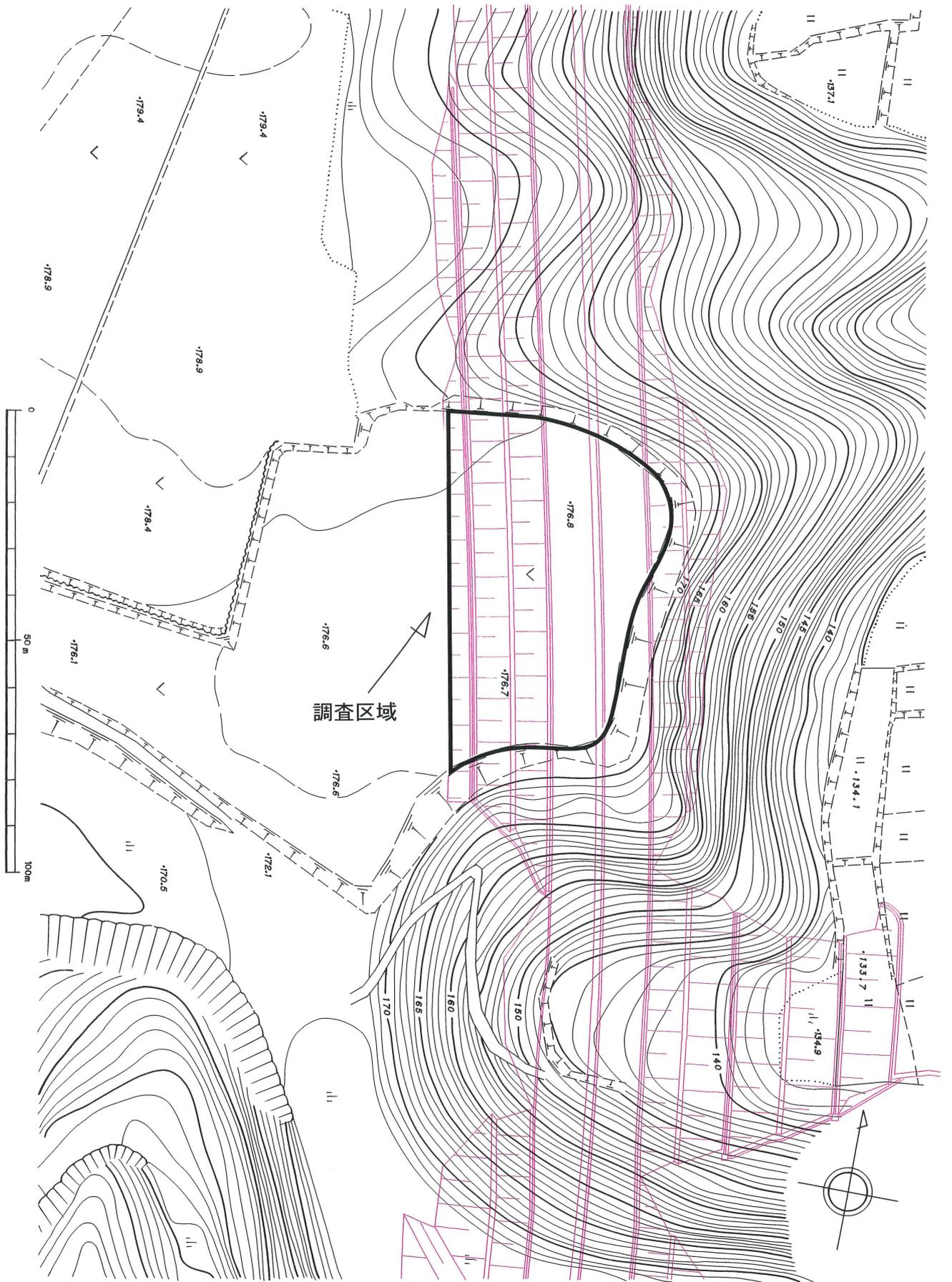
経緯度は東経13度から13度7分、北緯31度37分で、町総面積は49.69km<sup>2</sup>であり、山岳は末吉町に境する宮田山520m、有明町に境する霧岳408mが主な丘陵で、河川は大隅町岩川から新橋河床を経て、町の西端を流れる菱田川上流と、尾野見排水東端と大統東端を流れる安楽川の支流が主な河川である。気温は年間平均16.5度で西部台地と東部台地とでは年間平均気温が1度から2度の差があり、西部台地は一般的に霜が早く10月中旬には、初霜を見ることもある。晩霜は4月下旬で終わる。夏期における気温の変化は大差なく、最高36度くらいである。降雨量は平均2,190mmで中でも5月、6月の梅雨期と、8月9月の台風襲来時に集中するためシラス台地にある耕地等においては土の流失、埋没浸食の被害もある。

今回の調査を行った山ノ田遺跡は昭和63年度にも県教育委員会が主体となって発掘調査を行っており、弥生時代後期の花卉型住居が検出されている。今回の調査地点は前回の調査地点より南東に約300メートルで、遺跡の南東端に位置する。

この周辺の遺跡は縄文時代早期から弥生時代あるいは古墳時代までに及ぶ複合遺跡が多く存在し、遺跡の残りもよく資料的に貴重なものが多く発見されている。近くに勇水池があるなど地理的環境にめぐまれ古来より安住の地であったと思われる。



第1図 山ノ田遺跡位置図 ①



第2図 山ノ田遺跡位置図②

## 第1表 松山町遺跡一覽表

番号	遺跡名	所在地	地形	備考
1	水ノ谷	松山町新橋字水ノ谷	台地	
2	宇都谷	松山町新橋字宇都谷	台地	縄文早期
3	宇都谷D	松山町新橋字宇都谷	台地	縄文早期・後期、歴史
4	砂田A	松山町新橋字	台地	縄文早期
5	中村	松山町尾野見字中村	台地	縄文早期
6	下迫C	松山町新橋字下迫	台地	縄文早期
7	榎之俣	松山町新橋字榎之俣	台地	縄文早期
8	砂田D	松山町新橋字砂田	台地	縄文前期、弥生
9	稗ヶ迫C	松山町新橋字稗ヶ迫	台地	縄文前期、弥生中期
10	内ノ野C	松山町泰野字内ノ野	台地	縄文前期
11	前谷	松山町泰野字堀ノ内	台地	縄文前期
12	公会堂上	松山町新橋字公会堂上	台地	縄文前期
13	狩川B	松山町新橋字狩川	台地	縄文中期
14	松山	松山町新橋字松山	台地	縄文中期・後期
15	入道久保A	松山町新橋字入道久保	台地	縄文中期
16	内ノ野B	松山町泰野字内ノ野	台地	縄文中期
17	郷田	松山町泰野字郷田	低地	縄文中期
18	蛇山ノ谷	松山町尾野見字蛇山ノ谷	台地	縄文中期、弥生中期
19	垂門A	松山町新橋字垂門	台地	縄文後期
20	下迫A	松山町新橋字下迫	台地	縄文後期、弥生中期、歴史
21	堀口	松山町新橋堀口	台地	縄文後期、歴史
22	河床	松山町新橋字河床	台地	縄文後期
23	宇都谷A	松山町新橋字宇都	台地	縄文後期
24	宇都谷B	松山町新橋字宇都	台地	縄文後期、歴史
25	宇都谷C	松山町新橋字宇都	台地	縄文後期
26	中村迫	松山町新橋字中村迫	台地	縄文後期、歴史
27	山ノ田	松山町新橋字山ノ田	台地	縄文早期・後期、歴史
28	後谷A	松山町新橋字後谷	台地	縄文後期
29	上ノ原	松山町新橋字上ノ原	台地	縄文後期
30	入道久保C	松山町新橋字入道久保	台地・丘陵	弥生後期
31	仮屋	松山町新橋字仮屋	台地	縄文後期・晩期、歴史
32	稗ヶ迫A	松山町新橋字稗ヶ迫	台地	縄文後期、歴史
33	中山A	松山町新橋字中山	台地	縄文後期

番号	遺跡名	所在地	地形	備考
34	堀ノ内	松山町泰野堀ノ内	台地	縄文後期・晩期、歴史
35	黒石崎	松山町尾野見字黒石崎	台地	縄文後期
36	井手段Ⅲ	松山町尾野見字中村井手段	台地	縄文後期
37	百田	松山町新橋字百田	台地	縄文晩期
38	構溝	松山町新橋字垂門・構溝	台地	縄文晩期、歴史
39	牧ノ原B	松山町新橋字牧ノ原	台地	縄文晩期、弥生中期、歴史
40	大原	松山町新橋字大原	台地	縄文後期・晩期、弥生中期、歴史
41	後ノ谷	松山町新橋字後谷	台地	縄文晩期、歴史
42	水流知	松山町新橋字水流知	台地	縄文晩期、歴史
43	蕨野	松山町新橋字蕨野	台地	旧石器、縄文早期・後期・晩期、歴史
44	入道久保B	松山町新橋字仮屋	台地	縄文晩期、歴史
45	稗ヶ迫B	松山町新橋字稗ヶ迫	台地	縄文晩期、弥生中期
46	中山B	松山町新橋字中山	台地	縄文晩期、弥生中期
47	黒石Ⅱ	松山町尾野見字黒石	台地	縄文晩期
48	牧ノ段	松山町新橋字牧ノ段	台地	縄文早期・前期
49	井手間	松山町新橋字井手間	台地	縄文、弥生
50	梨木	松山町新橋字梨木	台地	縄文、歴史
51	大窪B	松山町新橋字大窪・垂門	台地	縄文、歴史
52	後谷B	松山町新橋字後谷	台地	縄文
53	尾野見城跡	松山町尾野見	台地	中世
54	前谷	松山町新橋字前谷	台地	縄文
55	砂田C	松山町新橋字砂田	台地	縄文、歴史
56	黒石Ⅰ	松山町尾野見字黒石	台地	縄文
57	豊留A	松山町新橋字豊留	台地	弥生中期
58	大窪A	松山町新橋字狩川	台地	弥生中期、後期
59	狩川A	松山町新橋字狩川	台地	弥生中期・後期
60	内ノ野A	松山町泰野字内ノ野	台地	弥生中期
61	柿木瀬戸	松山町泰野字柿木瀬戸	台地	弥生中期
62	六日畑	松山町尾野見字六日畑	台地	弥生中期
63	中村手岡	松山町尾野見字中村手岡	台地	弥生中期
65	井手段Ⅰ	松山町尾野見字中村井手段	台地	弥生後期
66	砂田B	松山町新橋字砂田	台地	弥生
67	川路	松山町新橋字川路	台地	弥生

番号	遺跡名	所在地	地形	備考
68	栗須田	松山町新橋字栗須田	台地	弥生
69	尾野見	松山町尾野見	台地	弥生
70	桐ノ木	松山町尾野見字桐ノ木	台地	弥生
71	瀬戸地下式横穴	松山町泰野字柿木瀬戸	台地	古墳
72	竹下	松山町新橋字竹下	台地	歴史
73	四ツ枝	松山町新橋字四ツ枝	台地	歴史
74	垂門C	松山町新橋字垂門	台地	歴史
75	下迫B	松山町新橋字下迫	台地	歴史
76	牧ノ原A	松山町新橋字牧ノ原	台地	縄文、弥生中期、歴史
77	豊留C	松山町新橋字豊留	台地	歴史
78	後谷C	松山町新橋字後谷	台地	
79	狩川C	松山町新橋字狩川	台地	歴史
80	清水迫	松山町新橋字清水迫	台地	歴史
81	川東	松山町泰野字川東	台地	歴史
82	豊留B	松山町新橋字豊留	台地	近世
83	垂門B	松山町新橋字垂門	台地	弥生、歴史
84	前之窪	松山町新橋字前之窪	台地	弥生中期、歴史
85	泰野城跡	松山町泰野字	台地	中世
86	松山城跡	松山町新橋字松尾	台地	縄文後期
87	宮田	松山町新橋字宮田	台地	縄文
88	香ノ田	松山町新橋字香ノ田	台地	縄文、歴史
89	境段Ⅰ	松山町新橋字境段	台地	縄文
90	境段Ⅱ	松山町新橋字境段	台地	古墳
91	宮田B	松山町新橋字宮田	台地	縄文
92	宮田C	松山町新橋字宮田	台地	縄文
93	池袋	松山町泰野字池袋	台地	縄文後期
94	蕨野B	松山町新橋字蕨野	台地	縄文後期
95	前谷B	松山町泰野字前谷	台地	縄文、弥生、古墳
96	大坂	松山町新橋字大坂	台地	古墳
97	京ノ峯	松山町泰野字京ノ峯	台地	縄文中期・後期・晩期、弥生中期、中世
98	柏木門権四郎の墓	松山町尾野見字柏木	台地	
99	前ノ谷	松山町新橋後谷	台地	縄文

# 第3章 遺跡の層位

本遺跡の標準的な層位は、場所によって削平などによる欠落があるが、おおよそ次のようになっている。

I層 表土・耕作土。黒色の火山灰土で、大隅半島に普遍的に見られる「クロボク」とよばれるものである。

II層 黒色土層。重機による整地によって形成された旧耕作土である。

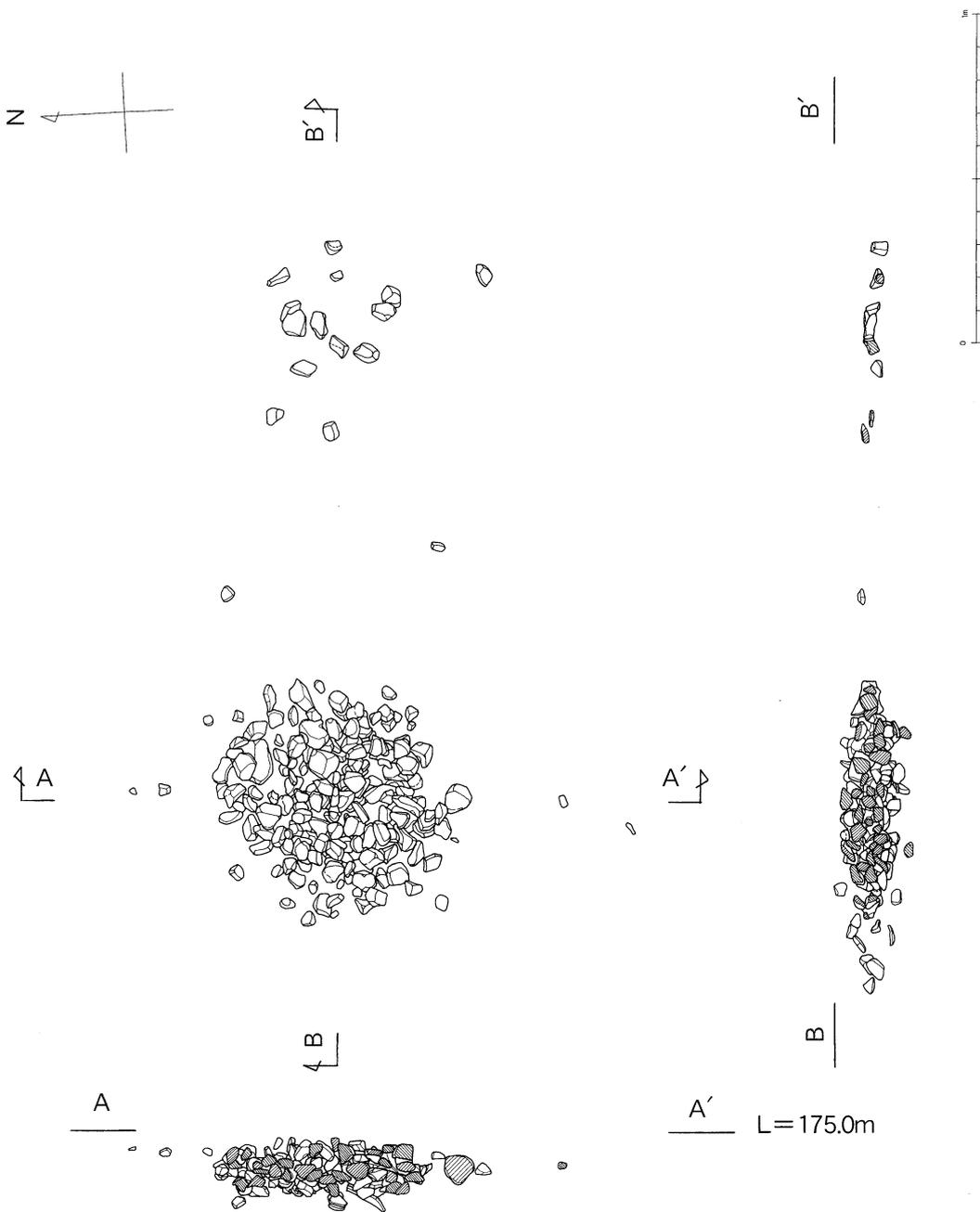
I	III層 明黄褐色軽石質火山灰土層。きわめて淘汰のよい直径5mm前後の黄褐色軽石を含み、サラサラしている。霧島火山御池軽石層に対比できるものと思われる。
II	
III	IV a層 褐色腐食火山灰土層。直径1mm前後の黄橙色軽石を多く含む。IV b（アカホヤ）層の二次堆積層とおもわれる。
IV a	IV b層 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさずV層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。
IV b	
V	V層 灰褐色火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。
VI	VI層 黒褐色腐食土層。直径5mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。V層との境は不明瞭で漸移している。
VII	
VIII	VII層 黄褐色火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、VI層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。
IX	VIII層 黒褐色を呈する粘性の強い火山灰土で“チョコ層”とも俗称される。
	IX層 淡黄褐色火山灰土層。粘質化した二次シラス層である。

上記のなかで遺物包含層は、V層、VI層、VIII層である。V層・VI層は縄文時代早期の遺物包含層、VIII層は旧石器時代の遺物包含層である。

# 第4章 山ノ田遺跡の調査

## 第1節 調査の方法

調査区域は、松山町新橋山ノ田にあり、標高約176mで、一般県道飯野松山都城線に隣接する舌状地の畑地である。調査対象面積は約3,000m<sup>2</sup>で、過去には個人で農地の整備を行なっているが、調査予定区内は盛り土を施してあるために包含層は破壊されていない。調査は工事予定区内の全ての表土を、重機を使って掘り下げ、3層上面より調査を開始した。また調査予定区内に10m間隔のグリッドを設定して調査を行った。



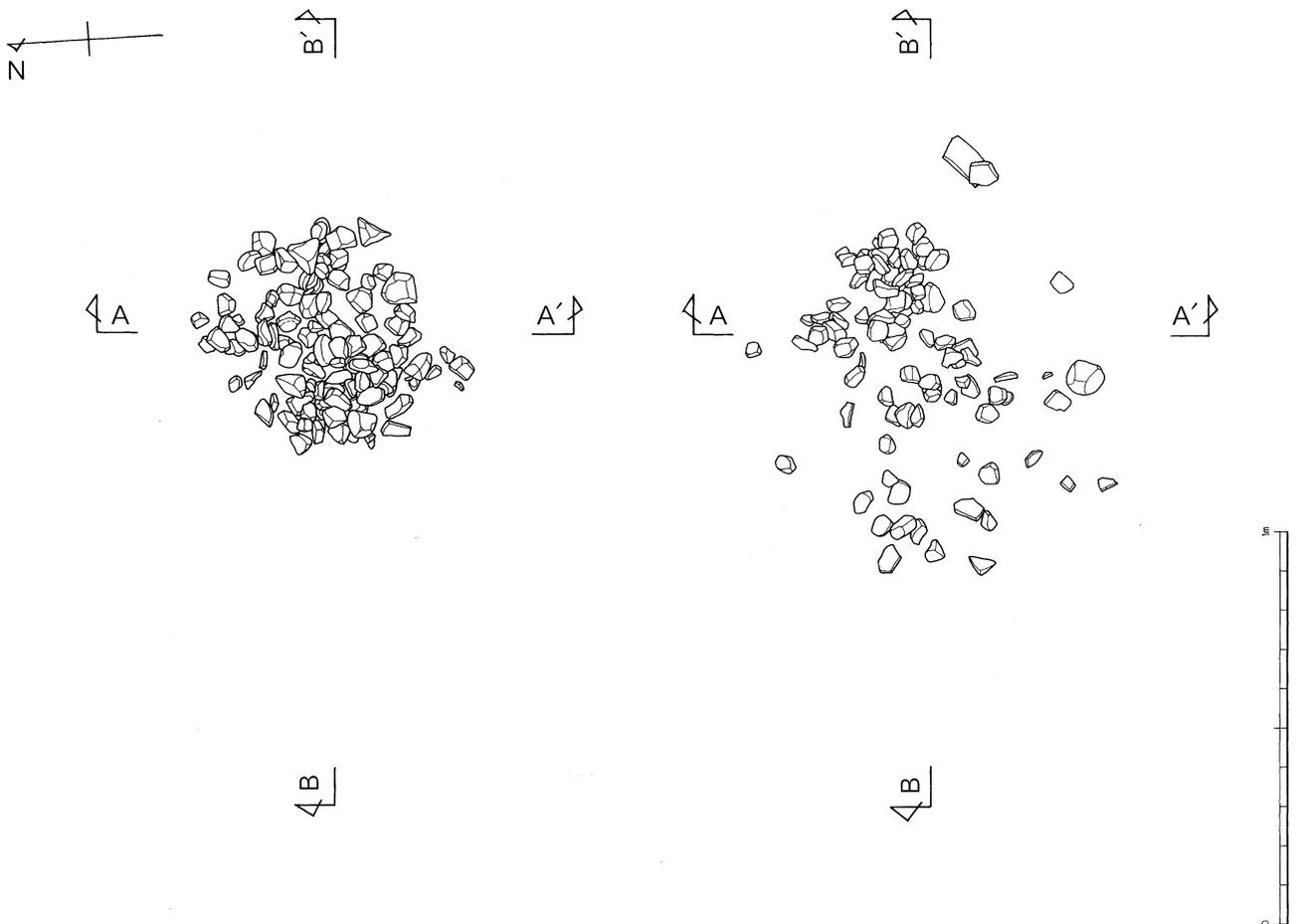
第3図 1号集石実測図①

## 第2節 遺構

遺構は用途不明の土壇が1基、集石が5基検出されている。住居跡等の遺構は確認されていない。集石の中でも特に3号集石からは完形の土器が出土しており、集石がかなり密集している。以下各集石ごとに記述する。

### 1号集石

調査区域の東端で検出された直径約50cm、厚さ約30cmの集石である。地表より約70cm下の標高175mの5層より出土している。掘り込みラインは確認できなかった。石の堆積幅がかなり厚かったため平面図は3とおりに分けて実測している。集石に伴う出土遺物はなかった。

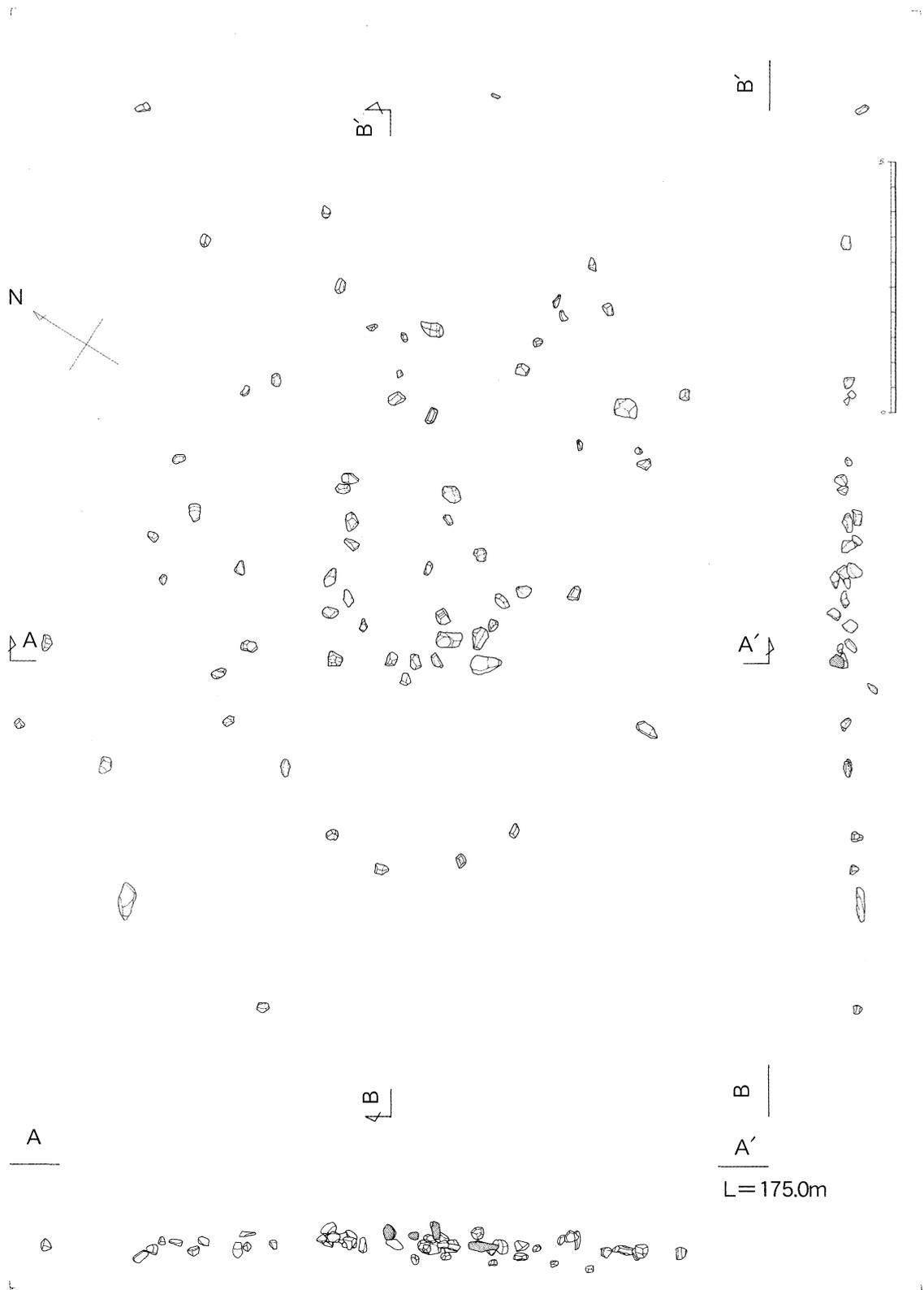


第4図 1号集石実測図②

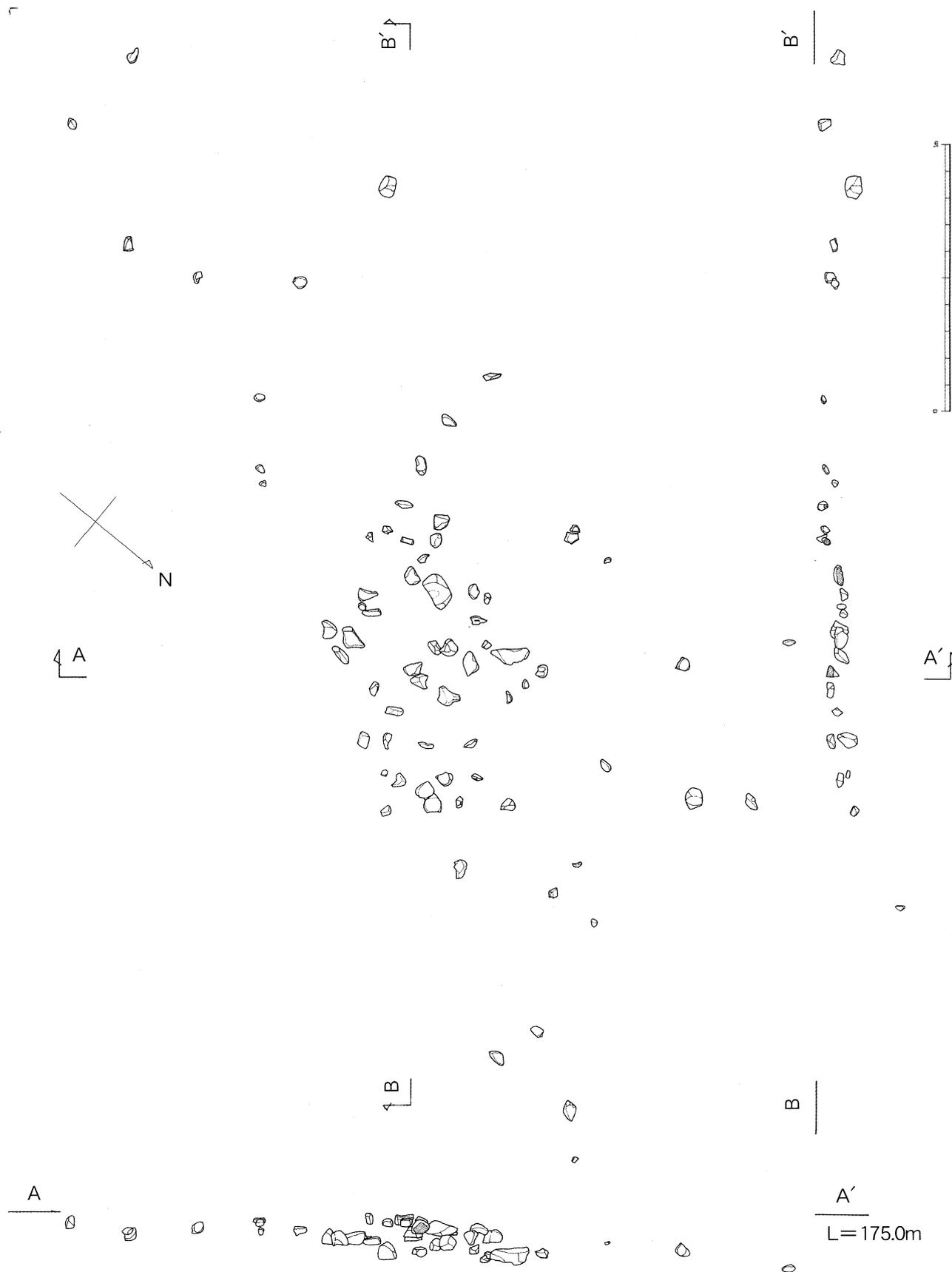
第5図 1号集石実測図③

## 2号集石

調査区内の南側に広範囲にわたって検出された集石である。完全な集石とはいえないが、関連がある可能性があるため実測した。



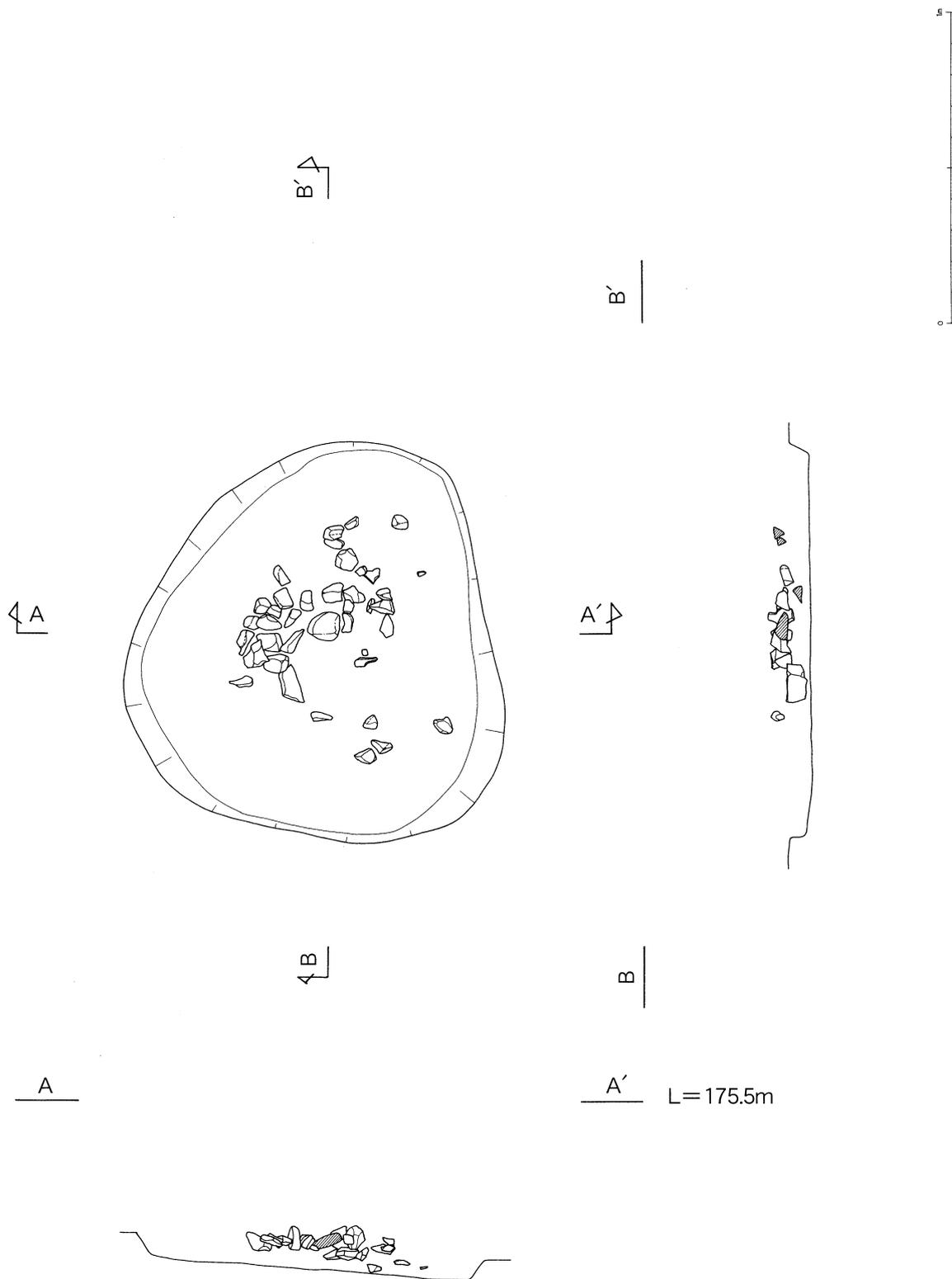
第6図 2号集石実測図



第7図 3号集石実測図①

### 3号集石

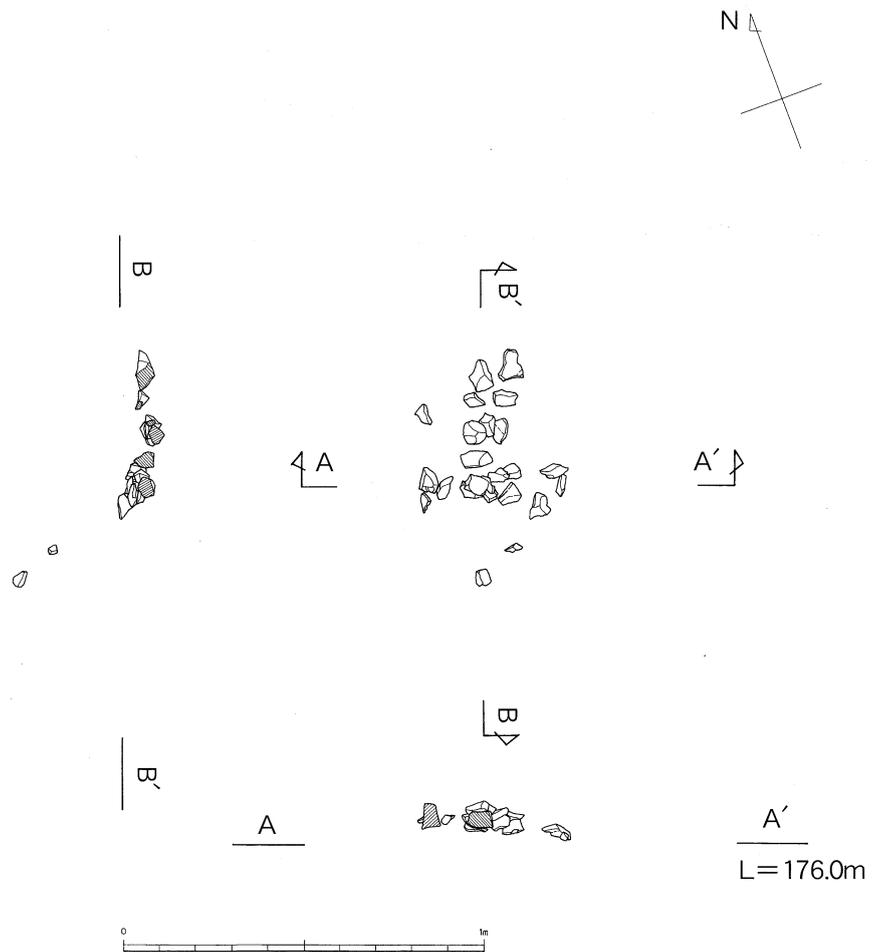
調査区内の中央に検出された集石である。かなり上層から検出されたので2枚に渡って実測している。標高約175mで最下部には石が密集しており、その周辺から完形の土器が出土している。また、集石の最下部には掘り込みラインが確認されている。



第8図 3号集石実測図②

#### 4号集石

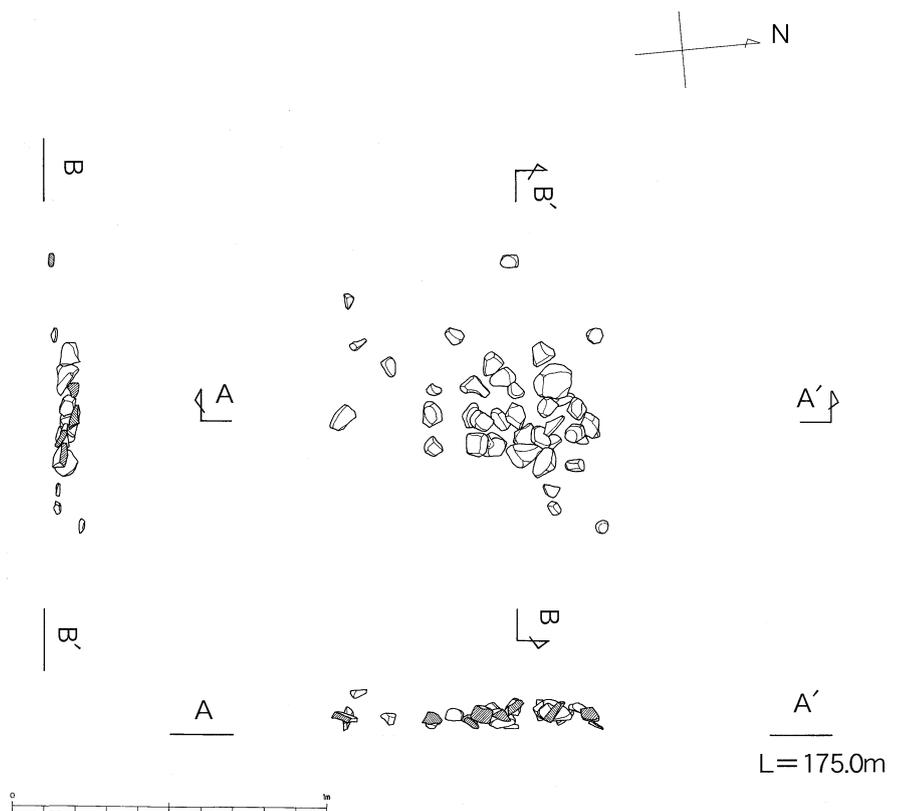
調査区域の中央部から  
検出された横約30cm  
×縦60cmの集石であ  
る。標高約176mから  
出土している。集石に関  
連する出土遺物は確認で  
きなかった。また、掘り  
込みライン等も確認でき  
なかった。



第9図 4号集石実測図

#### 5号集積

調査区域の中央部から  
検出された横約30cm  
×縦30cmの集石であ  
る。標高約175mから  
出土している。集石に関  
連する出土遺物は確認で  
きなかった。また、掘り  
込みライン等も確認でき  
なかった。

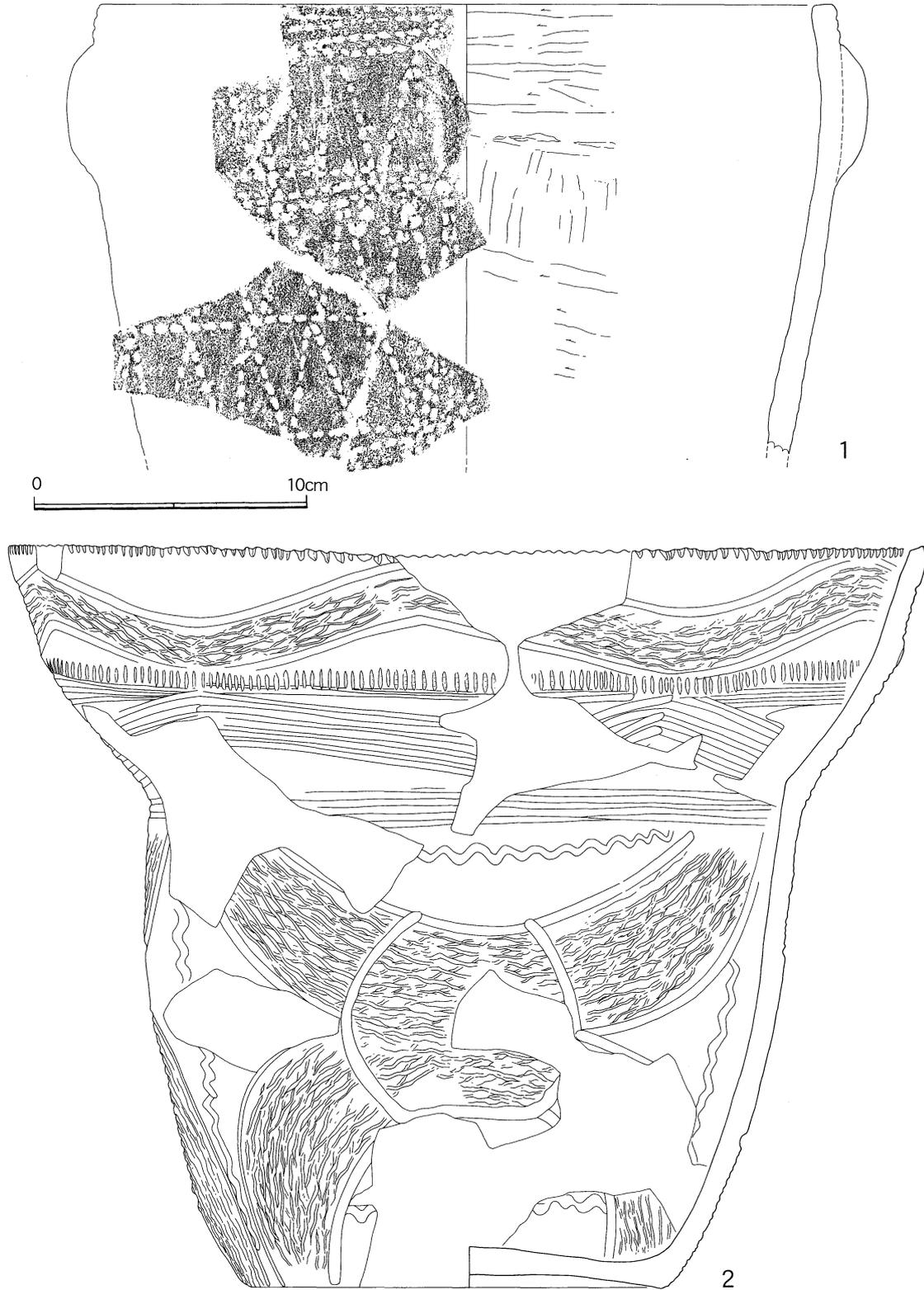


第10図 5号集積実測図

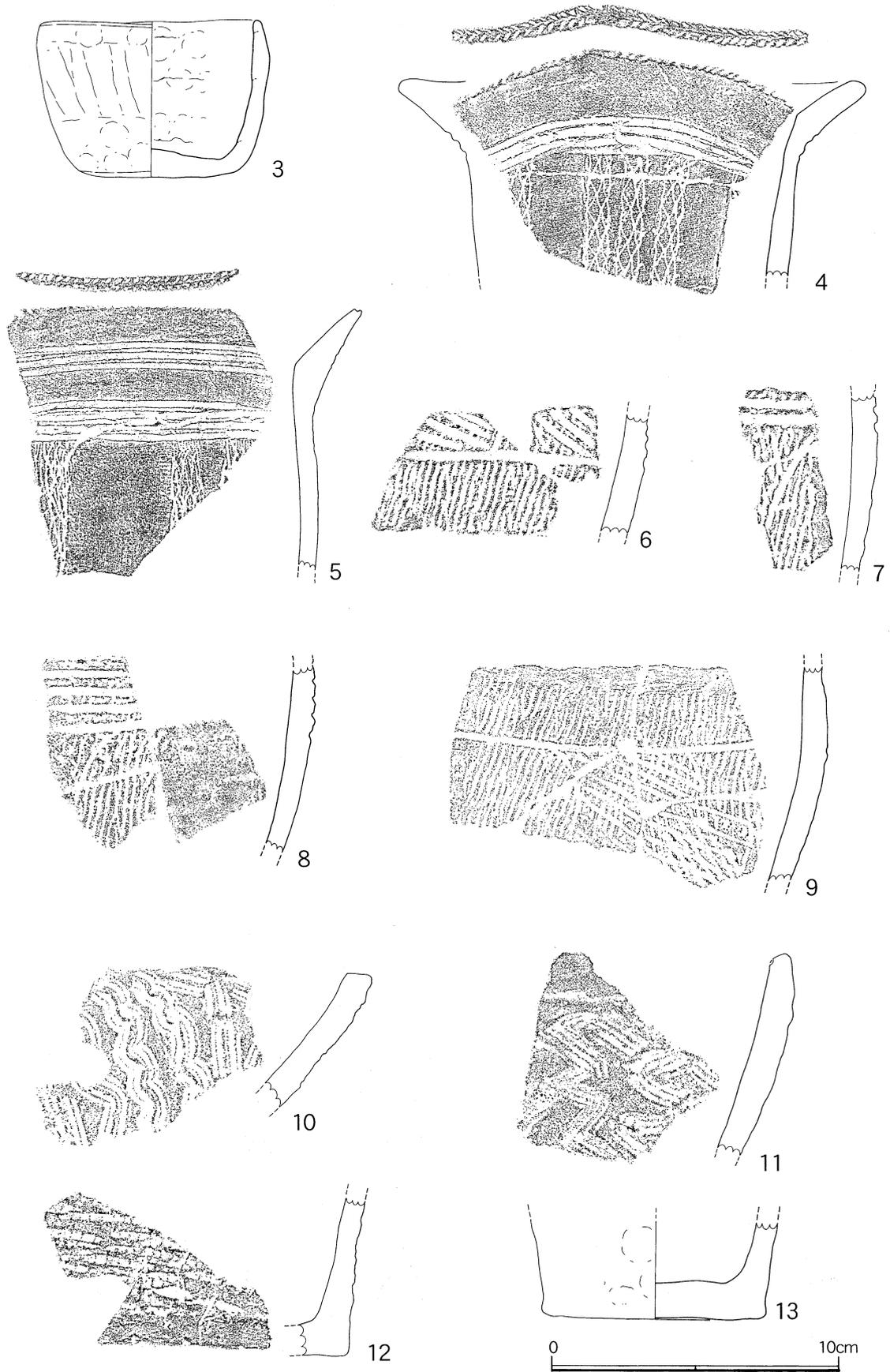
### 第3節 出土遺物

#### 1) 土器

出土遺物はいづれも縄文時代早期の土器である。1は深鉢で口縁部外面に帯状の突帯を貼り付



第11図 出土土器実測図①



第12図 出土土器実測図②

け、外面に全体に刺突による点線状の文様を施している。2は1号集石とその周辺から出土している。口縁部から底部にかけてつながり完形品である。口縁部はラッパ状にふくらみ、外部に編

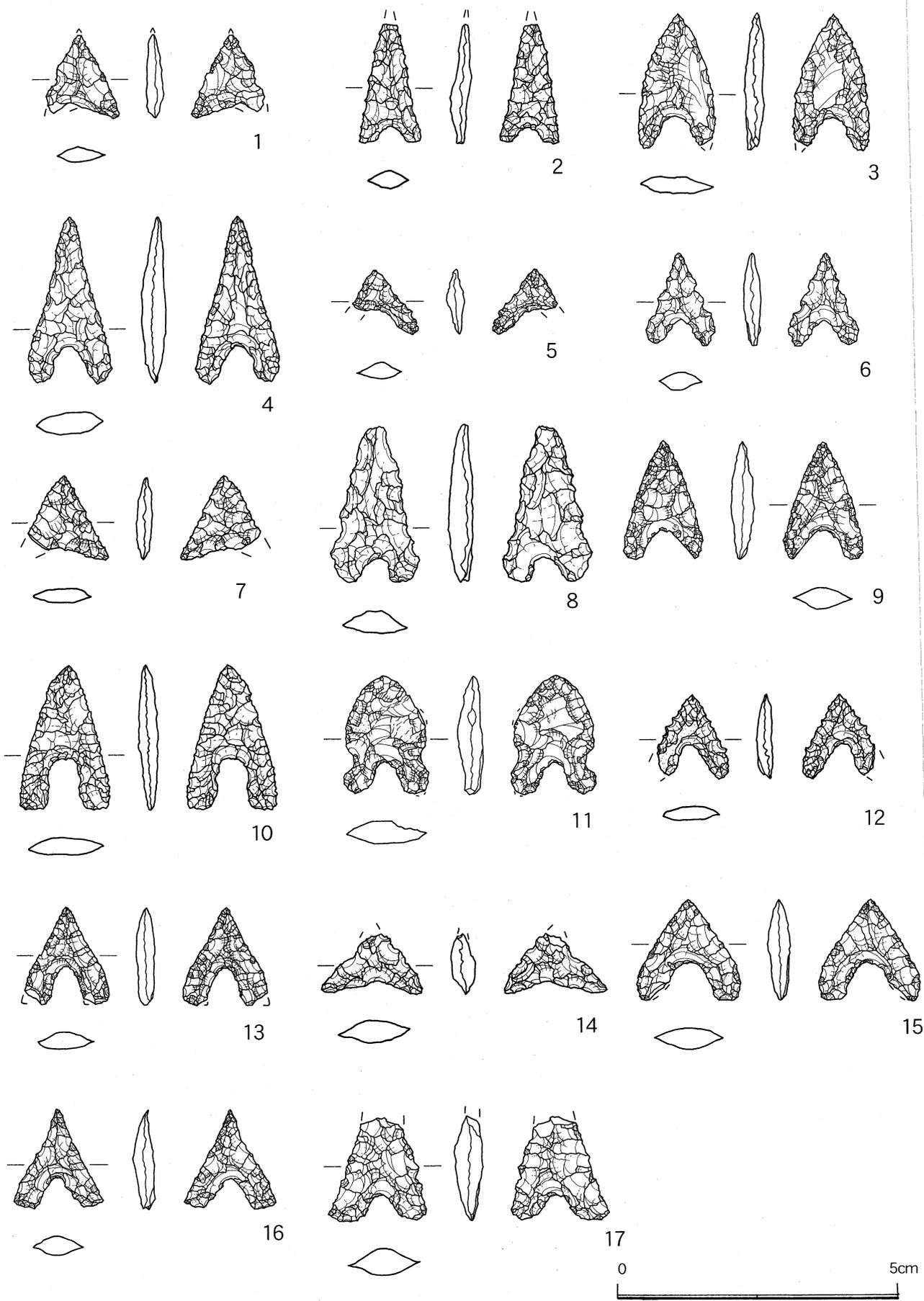
目捺糸文と刻みを施している。3は口径7.5cmで器高約5.5cmの小さな手づくね土器である。4、5は深鉢の口縁部で共に、先端が外反する器形である。口唇部に羽状の刻目と肩部あるいは口縁部外面に三本から四本の沈線を施し、胴部に縦の格子状の捺糸文を施す。6から9までは胴部である。6から8はやや肩部に近い胴部で上部に横位の数条の沈線があり、その下に縦方向の捺糸文を施している。9は底部に近い胴部で縦方向の捺糸文を施している。10、11は口縁部であるが外部に櫛状工具による波状文や山形文を施している。12、13は底部の破片で平底である。12は外部に捺糸文を有する。

第2表 土器観察表

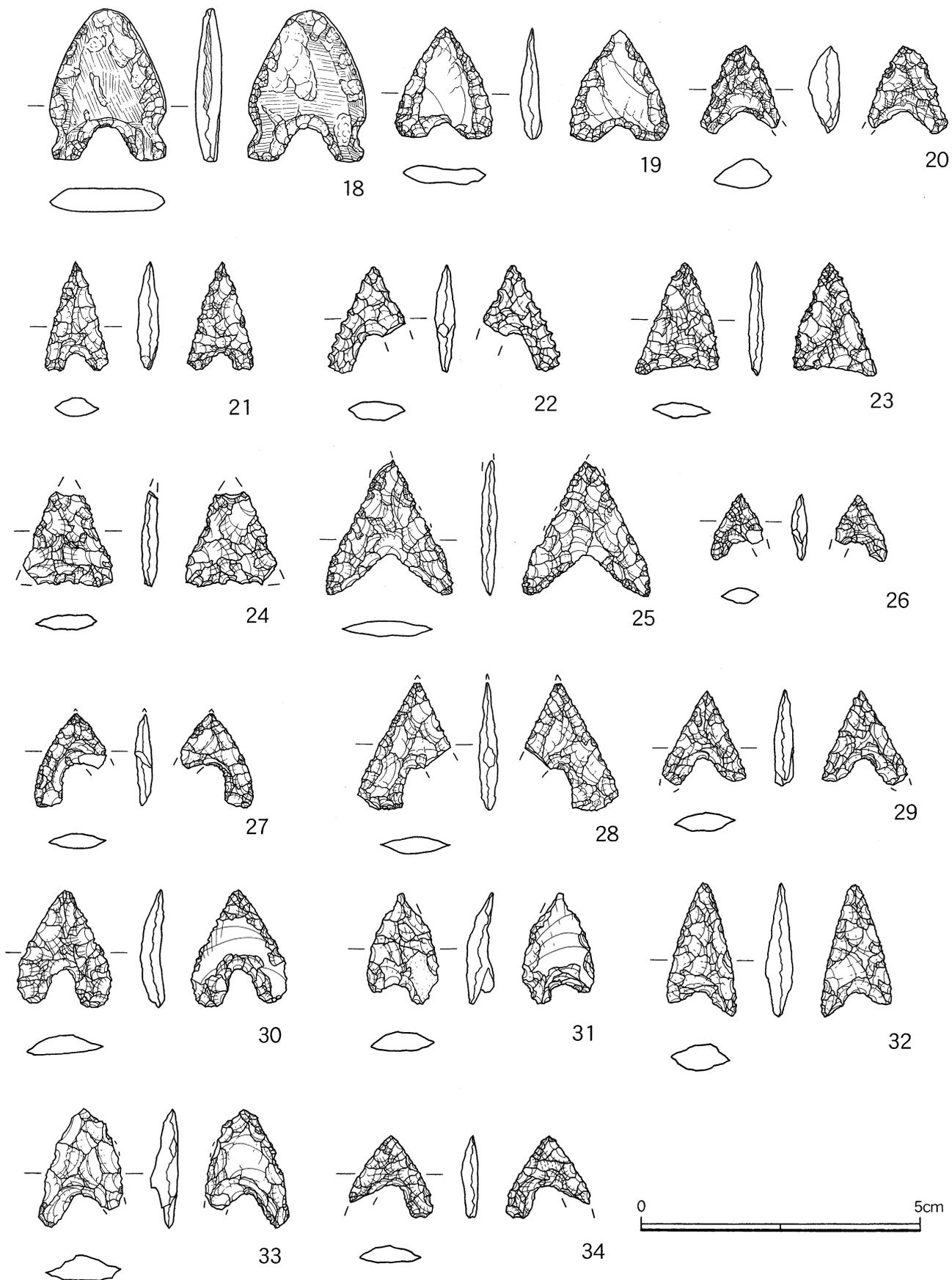
番号	層位	文様	調整		焼成	胎土	備考
			表	裏			
1	V・VI	刺突文	—	ナデ	良	角閃石、長石	
2	V	編目捺糸文、沈線文、刻目	—	ナデ	良	石英、長石、角閃石	1号集石周辺出土
3	V	—	—	ナデ	良	角閃石、長石	
4	V	縦位の捺糸文後沈線文	—	ナデ	良	角閃石、長石、雲母	
5	V	縦位の捺糸文後沈線文	—	ナデ	良	角閃石、長石	外面スス付着
6	V	縦位の捺糸文後沈線	—	ナデ	良	角閃石、長石	
7	V	縦位の捺糸文後沈線	—	ナデ	良	角閃石、長石	
8	V	縦位の捺糸文後沈線	—	ナデ	良	砂粒、角閃石	
9	V	捺糸文後沈線	—	ナデ	良	角閃石、長石	外面スス付着
10	V	工具による山形文	—	ナデ	良	石英、長石	
11	V	櫛状工具による波状文	—	ナデ	良	砂粒、石英	
12	V	捺糸文	—	ナデ	良	角閃石、長石、雲母	
13	VI	—	ナデ	ナデ	良	角閃石、長石、石英	

## 2)石器

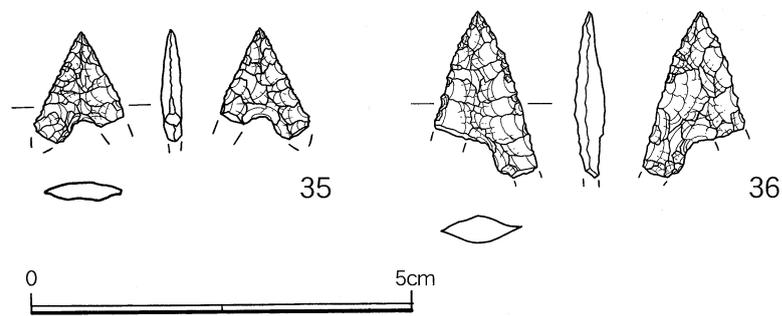
本遺跡からは石鏃が多く出土している。今回はその中から比較的残りのよい物だけを掲載している。



第 1 3 图 出土石器实测图①



第14图 出土石器实测图②



第15図 出土石器実測図③

第3表 石器観察表

番号	層	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
1	Ⅱ	石 鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.5
2	V	石 鏃	黒曜石	2.15	1.05	3.05	0.6
3	V	石 鏃	黒曜石	2.5	1.35	0.35	0.9
4	V	石 鏃	黒曜石	3.05	1.5	0.45	1.3
5	V	石 鏃	黒曜石	1.15	1.15	0.35	0.2
6	V	石 鏃	黒曜石	1.7	1.25	0.3	0.4
7	V	石 鏃	黒曜石	1.55	1.4	0.25	0.3
8	V	石 鏃	黒曜石	2.8	1.6	0.45	1.5
9	V	石 鏃	黒曜石	2.1	1.4	0.4	0.8
10	V	石 鏃	黒曜石	2.6	1.6	0.35	1.1
11	V	石 鏃	黒曜石	2.15	1.5	0.45	1.3
12	V	石 鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.4
13	V	石 鏃	黒曜石	1.75	1.5	0.35	0.5
14	V	石 鏃	黒曜石	1.05	1.8	0.45	0.5
15	V	石 鏃	黒曜石	1.8	1.85	0.4	0.8
16	V	石 鏃	黒曜石	1.8	1.65	0.4	0.6
17	V	石 鏃	黒曜石	1.85	1.75	0.5	1.2

18	V	石 鏃	黒曜石	2.8	3.1	0.45	3.0
19	V	石 鏃	黒曜石	2.0	1.75	0.4	1.0
20	V	石 鏃	黒曜石	1.6	1.4	0.55	0.9
21	V	石 鏃	黒曜石	2.0	1.15	0.4	0.6
22	V	石 鏃	黒曜石	1.95	1.4	0.35	0.5
23	VI	石 鏃	黒曜石	2.05	1.45	0.3	0.5
24	VI	石 鏃	黒曜石	1.7	1.65	0.3	0.7
25	VI	石 鏃	黒曜石	2.45	2.25	0.3	1.0
26	VI	石 鏃	黒曜石	1.2	0.9	0.3	0.2
27	VI	石 鏃	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.3
28	VI	石 鏃	黒曜石	2.3	1.65	0.35	0.8
29	VI	石 鏃	黒曜石	1.7	1.5	0.35	0.7
30	VI	石 鏃	黒曜石	2.15	1.7	0.45	0.9
31	VI	石 鏃	黒曜石	2.0	1.3	0.45	0.9
32	VI	石 鏃	黒曜石	2.4	1.25	0.5	1.1
33	VI	石 鏃	黒曜石	2.15	1.5	0.5	1.1
34	VI	石 鏃	黒曜石	1.5	1.5	0.3	0.4
35	VI	石 鏃	黒曜石	1.5	1.2	2.05	0.3
36	VI	石 鏃	黒曜石	2.25	1.35	0.4	0.7

## 第5章 まとめ

その結果、山ノ田遺跡は縄文時代早期と旧石器時代の遺跡である。縄文時代早期は5層・6層で旧石器時代は8層が包含層である。縄文時代早期は土器の小片が出土し、石器では石鏃や薄片等が多数出土している。またその他に集石が3基検出されている。旧石器時代では、石器は出土していないが、1基集石が検出されている。山ノ田遺跡は遺物や遺構の出土状況からも地形からも遺跡の中心部ではなく、周辺部であることが伺えた。また、遺構に集石が5基検出され、周辺からも炭化木の小片が多数確認されたことから、近くに住居跡などの集落等が存在した事が考えられる。



遺物出土状況



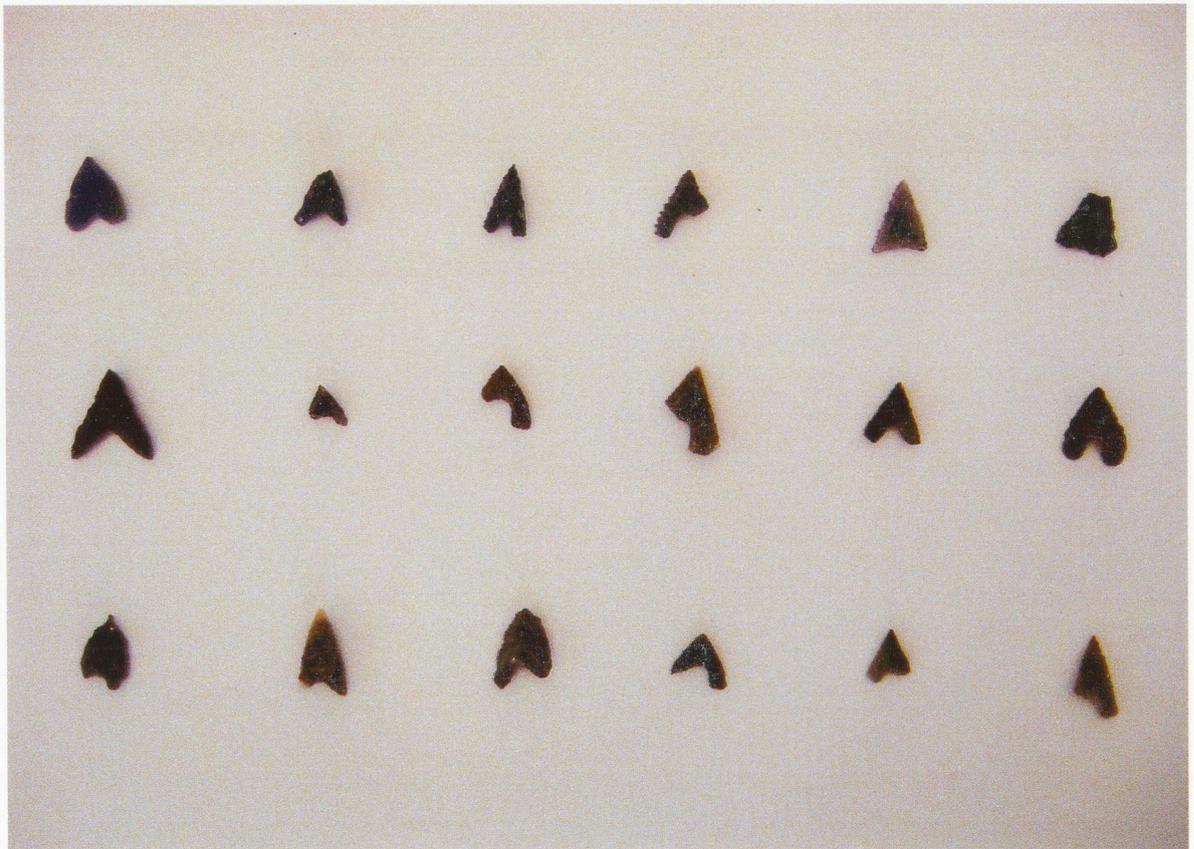
3号集石検出状況



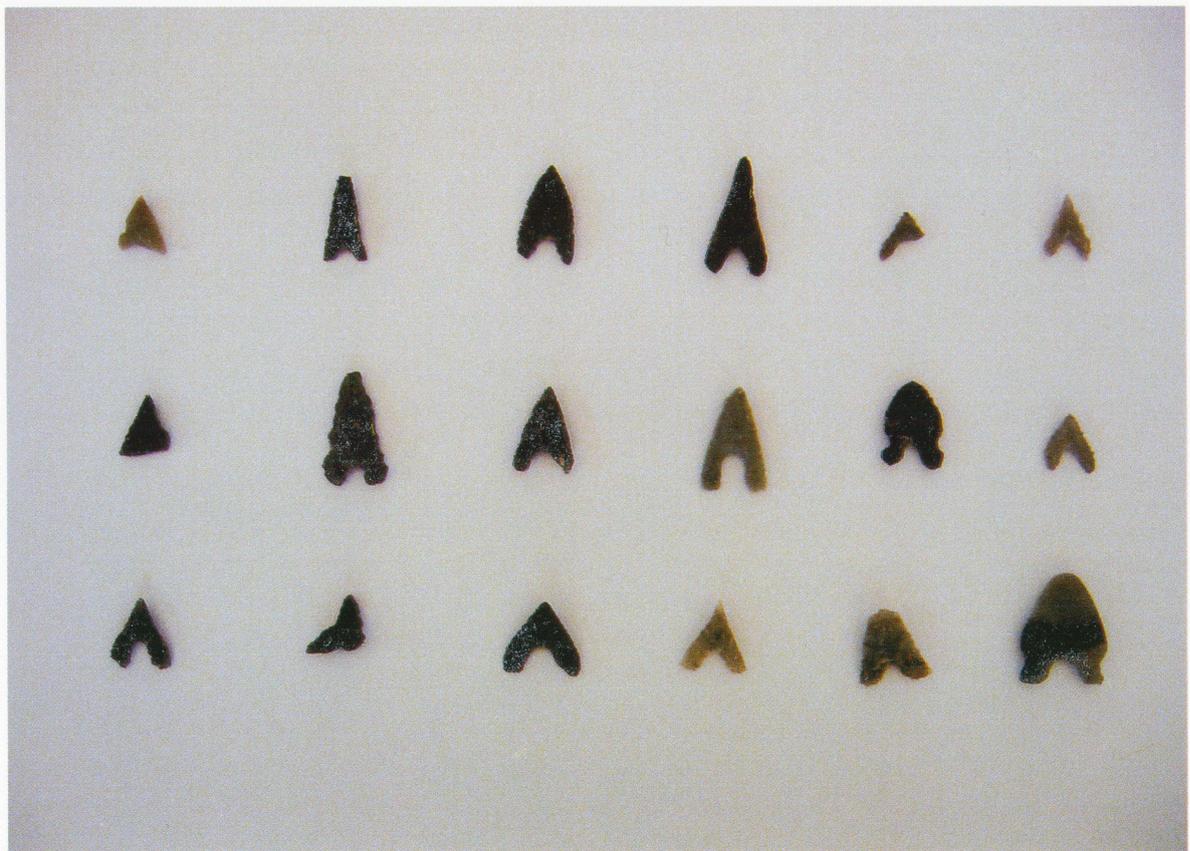
出土土器①



出土土器②



出土石器①



出土石器②